

実証実験結果を踏まえた論点（案）

1. 実証実験で実施した内容について

No	内容	論点
1	【高齢聴取者について】 近距離・中距離での了解度は成人と同等であるが、屋内や遠距離(500m～600m 地点)の場合、成人の了解度は良好であるにもかかわらず、高齢者の了解度は急激に低下する。	・屋外スピーカーによる拡声放送によって長年の課題の一つであり、何らかの改善策や効果的な代替手段があるか？
2	【暗騒音試験について】 第一回実証実験では、350m 離れの聴取点を再現し、豪雨時暗騒音(65,70,75dB)で試験を実施した。無響室では75dBの暗騒音下でも放送が聞き取れた。一方で、第二回実証実験では、鳴動点から500m離れた地点ではあるが、71dB程の「川の水音」「道路沿いの交通騒音」により、放送は聞き取れなかった。	・無響室での試験と屋外試験とで、結果の違いにつながる要因は何か？ （「風」「ノイズ等の変動」など）
3	【男女話者の違い】 今回の実験で用いた音声合成では、女性話者の方が全ての試験で高い了解度が得られた。	・女性の声のこういった特徴が了解度に貢献するのか？ ・本実験の結果と異なり、一部市町村からは、「防災無線の音声は女性の声に代わり、前より聞き取りにくいと感じます。音がぼやけてははっきり聞き取りにくいと思います。」といった意見もある。理由として何が考えられるか？ ・男性、女性は状況に応じて使い分けるべきか？（一般放送は女性、緊急放送は男性と使い分ける自治体もある。）

2. 実証実験で実施出来なかった内容について

No	内容	論点
1	【防災放送について】 防災放送の話速の「理解度」「緊急性」への影響	・災害情報の放送に対しては、「アナウンスがゆっくり過ぎて聞きにくい」「緊急性を感じない」といった住民からの指摘を受けることがある一方、エコーの影響を避けるため、ある程度感覚をあけた放送が必要という意見もある。 両方の問題を解決する方策はあるか？
2	【隣り合う子局間での干渉の影響】 松田町でも既設の定時放送を聞くと、複数子局から音声聞こえ、放送内容が聞きづらい場所があった。	・定量的な評価が可能か？ ・現場において実施可能な対策はあるか？
3	【放送等の鳴動確認の方法】 災害発生時に、実際に屋外スピーカーが鳴動したかどうかについて、職員が現地に赴いて確認することは難しい。	・IoT を活用することなどにより、職員が屋外スピーカーの鳴動を安価に確認する手法はあるか？